

授業科目名	コミュニケーション実践	科目コード	263018		
開講クラス	動物健康管理学科	コース	動物園・水族館・ドッグインストラクターコース	学 年	1 年
担当教員	改井 宣隆				
	実務経験教員 ( <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ) 実務経験内容 前職で地元放送局において、約 10 年間ラジオパーソナリティやナレーターを経験。「話す・聞く」といったコミュニケーションの基本について経験を基にして教えていく。				
開講時期	前期・後期・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年・特別講義・その他		授業コマ数	45 時間	
	<input checked="" type="checkbox"/> 必須 ・ 選 択 ・ 選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト 1	書 名	コミュニケーション検定初級公式ガイドブック&問題集			
	著 者	サーティファイコミュニケーション能力認定委員会			
	出版社	サーティファイ			
使 用 テキスト 2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書					
授業形態	講義 ・ 演習 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 実技 ・ 実験 ・ その他 ( )				
<p>&lt;授業の目的・目標&gt;</p> <p>動物業界も接客業である。接客のためには「コミュニケーション力」は必須となります。最近ではコミュニケーション能力の少ない学生も多く、コミュニケーション力を少しでもつける授業を展開する。</p>					
<p>&lt;授業の概要・授業方針&gt;</p> <p>コミュニケーション力をつけるためには何が必要か。座学を中心に学生同士でのワークショップなども展開する。</p>					
<p>&lt;成績基準・評価基準&gt;</p> <p>前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。前期の評価基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。前期は定期試験と出席での評価をする。後期は「コミュニケーション検定 初級」の検定試験を実施しその点数及び結果を評価とする。</p>					
<p>&lt;使用問題集・注意事項&gt;</p> <p>ウィネット コミュニケーション検定 初級対策テキスト</p>					
<p>&lt;授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他&gt;</p>					

授業科目名	コミュニケーション実践	
回	授業内容	備考
1	自己紹介の方法・効果的な自己紹介とは	2H/回
2	自己紹介	
3	コミュニケーションを考える	
4	聞く力 目的に即して聞く	
5	傾聴・質問する。	
6	話す力 目的を意識する	
7	話を組み立てる	
8	ことばを選び抜く	
9	表現・伝達する	
10	正しい日本語で話そう（現在の「日本語」を考える）	
11	正しい日本語で話そう（正しい言葉遣い。正しい敬語）	
12	効果的な話し方を身につけよう（効果的に話す・効果的な話の方法）	
13	きれいな発声・発音を身につけよう（自分の話し方・きれいな発声、発音を身につけよう）	
14	ニュース原稿を読んでみよう	
15	前期定期テスト対策	↓
16	来客対応	1H/回
17	電話対応	
18	アポイントメント・訪問・挨拶	
19	情報共有の重要性	
20	チーム・コミュニケーション	
21	接客・営業	
22	クレーム対応	
23	会議・取材・ヒアリング	
24	面接	
25	あいさつとTPO・一般会話力（問題集）	
26	検定試験模擬問題	
27	検定試験模擬問題	
28	検定試験模擬問題	
29	検定試験本番	
30	検定試験振り返り	↓